

令和6年度 第4回こんな長崎どがんです会(令和6年12月24日)

テーマ:サステナブルな暮らしについて ~「ながさきデコ活」で二酸化炭素を削減するライフスタイル転換に向けて~

参加者:8人(温暖化防止活動関係者及び学生、流通・小売業者、学識者、電気事業者、情報発信関係者)

主な意見	対応状況
<p>(情報発信について)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○関心度合に応じた丁寧な情報提供や、「なぜ必要なのか」という動機づけを分かりやすく伝えることが重要。</li><li>○多くの方は興味のある情報にしか触れようとしない。興味が無い人にも繰り返し情報が目に入る仕組みをつくり、記憶に残るようにすることが効果的。</li></ul>	<p>「ながさきデコ活」の周知策の一つとして、YouTube 上での広告配信をしています。関心が低い方であっても、短いフレーズが繰り返し再生されることで、まずは記憶に残していただけることを目的としています。今後とも、内容を工夫しながら「ながさきデコ活」の普及啓発事業に取り組んでまいります。</p>
<p>(行動変容について)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○日常生活で簡単に楽しめることが対策につながり、周りを巻き込みさらに他人に広げていくことができる。</li><li>○二酸化炭素削減を通して生活をより豊かにできることを前面に出し、食や自然など長崎の魅力的な営みをうまく結びつけた発信が重要。</li><li>○行動のきっかけや継続には、効果が見える化し、非経済的な観点からの動機づけが必要。</li><li>○身近なものとして、学校の電気・水道使用量を可視化して学校単位で競うといった例では、理解と行動を促すのに効果的。</li><li>○企業での例として、社員が取組を宣言することで家庭も含めて主体的に行動するきっかけとしている。</li></ul>	<p>「ながさきデコ活」の周知策の一つとして、日常生活の中でできる簡単な取組を中心に紹介しています。今回、事例として紹介された学校単位での競争や、宣言をきっかけとする方法なども参考にし、行動変容に繋がる取組効果の見える化や、主体的に行動するきっかけづくりを検討し進めてまいります。</p>
<p>(若年層を惹きつける方法について)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ゴミ拾いのスポーツ化など、楽しみながら活動できるものは、始めるきっかけになりやすいし、いろいろな人と交流できる仕組みづくりが大事。</li><li>○取組を称賛する仕組みや親しみやすいネーミングにより、活動が社会的に認知され、楽しさとステータスを感じられることが効果的。</li></ul>	<p>楽しみながら活動できるイベント等との連携や若年層への訴求などについて、若い方の意見もお聞きしながら検討してまいります。</p>
<p>(消費者の行動について)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○地元の旬の食材を消費する食文化は、遠方からの食材輸送を減らし、持続可能な食生活につながる。結果として二酸化炭素削減につながる地産地消などの取組を促すことは重要。</li><li>○節電等の各種対策が、家計の節約や生活の質の向上につながるイメージを広め、対策を当たり前の社会習慣として定着させることが大切。</li><li>○企業や製品を選ぶ際に環境に配慮されたものを選択できるように、店舗や企業とのコラボキャンペーンやイベントにより促すことができる。</li></ul>	<p>自分自身のライフスタイル・消費行動が結果として二酸化炭素の削減につながる習慣(例えば「てまえどり」、「地産地消」、「省エネ製品の購入」など)となるよう、今回のご意見や関係団体のご意見を参考にに取り組んでまいります。</p>